

明治大学校友会西東京市地域支部の皆さまへ

『 春の街歩きのご案内 』

今回の街歩きは、お茶の水駅から歩き出し、ニコライ堂・湯島聖堂・神田明神・湯島天神・旧岩崎邸庭園を巡り、上野駅で解散という行程を考えました。

多くの校友の皆さまのご参加をお待ちします。

日時 3月19日(日) 午後1時30分 中央線御茶ノ水駅 聖橋口改札集合

行程 《ニコライ堂》

正式名称を「日本ハリストス正教会教団 東京復活大聖堂」といい、1891年に竣工しましたが、1923年の関東大震災でドームが崩落し、現在の大聖堂は1929年に完成したものです。1962年に重要文化財に指定されています。

《湯島聖堂》

徳川五代将軍綱吉公が儒学の振興を図るため1690年に湯島の地に聖堂を創建しました。その後、1797年には、幕府直轄学校として昌平坂学問所が開設されました。

1923年の関東大震災では入得門と水屋を残し、全ての建物が焼失しましたが、1935年鉄筋コンクリート造りで再建されました。

《神田明神》

江戸総鎮守の神田明神は、正式名称を神田神社といい、大己貴命(おおなむちのみこと)、少彦名命(すくなひこなのみこと)、平将門命(たいらのまさかどのみこと)を御祭神としています。毎年5月には、江戸三大祭の一つ「神田祭」が行われます。

《湯島天神》

湯島天神は、天之手力雄命(あめのたぢからをのみこと)、菅原道真公(すがわらみちざねこう)を御祭神としており、雄略天皇二年(458年)の創建と伝えられており、降って1355年に菅原道真公のご遺徳を慕って奉祀されたといわれています。現在の社殿は、1995年に造営されたものです。

《旧岩崎邸庭園》

旧岩崎邸は、明治29年(1896年)に岩崎彌太郎の長男で三菱第3代社長の久彌の本邸として、英国人ジョサイア・コンドルの設計により建てられた近代日本を代表する西洋木造建築です。1961年に重要文化財に指定されています。

費用 ニコライ堂拝観料 300円、旧岩崎邸庭園入園料 400円

申込 久保田までご連絡ください。

パソコンメール kurea0203@ksn.biglobe.ne.jp

スマホ電話 090-7723-5311